

見通し立て 逆算で準備



① 人生100年 幸せに生活するには

あなたは老後の生活に備えていますか? 「人生100年時代」といわれる社会で、最後まで幸せに生活するためにはどんな準備や心掛けが必要か、考えてみましょう。

Q 人生100年をお金と上手に付き合うには、何から始めればいい?

A 図1にあるように、20歳から65歳まで働くとしたら、リタイア後の生活は実に35年間の長きにわたります。働いて収入を得ることのできる45年の間に結婚して家族をつくり、子どもを育てて教育を受けさせ、家を持ち、さらに長い老後に備えなければなりません。

そう考えると、現役時代にいかに働き、いかにお金を使うかは、よくよく考えて無駄のないようにしなければなりません。自分の置かれている状況をしっかりと把握し、正確な知識を基に見通しを立て、そこから逆算して準備を始めることが必要です。

Q 老後に2千万円必要という話があったが、それだけあれば大丈夫?

A 夫婦合わせて毎月20万円 of 年金がもらえ、生活費にあと5万円足りないとしたら、30年間の不足額は1800万円となり、リタイアまでにおよそ2千万

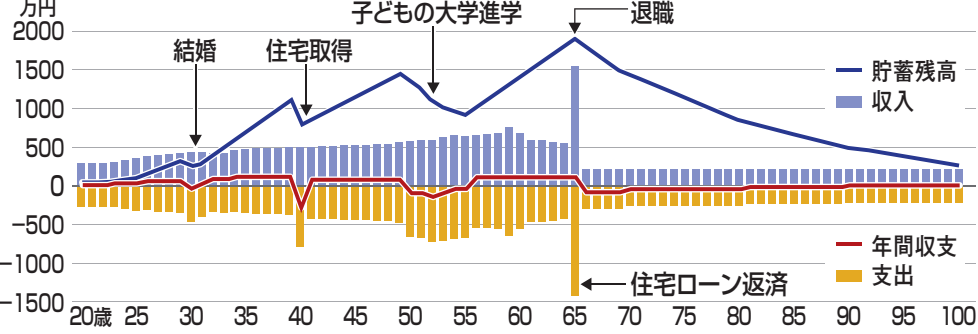
円の資産が必要、という話でした。これはあくまでモデルケースで、家族構成も年金額も生活に必要な金額も、それぞれです。今後どんな社会になっていくか、ずっと健康でいられるかも分かりません。しかし、変化は急激には起こらないだろうし、着て食べて寝るといふ日常生活はずっと続くので、実際の生活に必要なお金がどのくらいかかるのかを把握するこ

富山県金融広報委員会
金融広報アドバイザー
横山 純子

とは大切です。入ってくる年金とつってきた資産以上に使うことはできません。だからリタイア後の年金がいくら入り、生活費にいくら出ていくか、何かあったときの蓄えはどの程度あればよいか、毎月の不足分の取り崩しがいくらであれば何年持つかを事前に考えておけばよいのです。誰もが年をとってリタイアの時期を迎えます。あらかじめ準備をしておけば、多少の予想外の出来事にも対応していける、と思えるのではないのでしょうか。

Q 幸せな生活のためのお金の使い方を教えて

サラリーマンの一生の収入・支出・貯蓄残高のイメージ (図1)



安心して取り崩していいお金はどのくらい? (図2)

	今持っているお金	病気、介護等が必要になった時のお金	÷	あと何年生きる? 100歳-今の年齢	=	今年使っていいお金
パターン①	1500万円	- 500万円	÷	100歳 - 80歳	=	50万円
パターン②	2500万円	- 500万円	÷	100歳 - 75歳	=	80万円
パターン③	2000万円	- 500万円	÷	110歳 - 85歳	=	60万円

A 将来何が起きるか分からないので、年金の範囲で生活し、大きなお金は取り崩したくないのは誰しも同じです。そこで自分の資産から病気や施設入所等への予備費を引いた金額を、あと何年生きたいかで割って、今年取り崩してよい金額をはじき出してみてもどうでしょう。

図2のパターン①のように、80歳で1500万円の資産がある人を例に考えてみます。予備費500万円を除いた資産1000万円を、100歳まであと20年で使うとすると「1000÷20=50」と、今年50万円を取り崩してもよいということになります。

もし寝起きに不便を感じている人なら、リクライニング機能のあるベッドの購入に使うのも良いと思います。生活の質が向上し、将来役に立つかもしれない機能もあります。そして支払われたお金は、世の中を巡って私たちが住む社会を潤してくれます。

今の自分には不足がないと思われたら、大切な家族のため、または災害などつらい生活をしている人の役に立つように使いましゅう。自分が思う価値以上にお金は働いて、たくさんの人を笑顔にしてくれるかもしれません。

◇ (ファイナンシャルプランナー)

生きる上で欠かせないお金について学ぶ機会は案外少ないものです。ライフプランと家計、資産形成、年金…。「お金の達人」になるための知識を、金融経済や生活設計の専門家である富山県金融広報委員会の金融広報アドバイザーが分かりやすく伝えます。